

高知商業高校ジビエ部



ディスカバー農山漁村の宝アワード 特別賞「ジビエ賞」受賞

全国の高校で
唯一の受賞

高知商業高校ジビエ商品開発・販売促進部は、11月7日（月）、農林水産省が主催する「第9回ディスカバー農山漁村の宝」において、ジビエ利活用と消費拡大の取組が評価され、コミュニティ・地産地消部門で優良事例として全国37地区の中の1つとして選定を受けました。また、全国10の活動に贈られる特別賞「ジビエ賞」を受賞しました。高校生の視点で野生鳥獣被害という地域課題に目を向け、ジビエを利活用した商品開発、販売促進活動、そして販売利益を森林保護活動に寄付するという循環型社会の実現に向けた5年間の取組が評価されました。

今年12月には、東京都千代田区の総理大臣官邸にて認定証授与および各受賞団体との交流会が予定されています。今回の受賞は、全国の高校生の活動としては唯一のものとなりました。

ジビエの利活用から外商活動へ

2022年11月現在、ジビエ部が消費してきたニホンジカやイノシシなどのジビエ肉の量は1トンを超えました。この5年間で、「高校生ジビエ・レストラン」メニューを含めた開発商品の数は、20品目となっています。中でも、鹿肉本来の味を残し、シンプルな味付けにこだわった「鹿ジャーキー」は、発売から3年が経過し、販売個数1,000個を達成しました。現在、東京ドームや県外通販サイトで販売されており、ジビエ部としてはジビエの魅力さをさらに普及させるために外商活動に力を入れています。今年10月に開催された高知県産品商談会にも出展し、次年度に向けて新たな取引先も確保することができました。それに伴い、商品の改良も進めています。

ジビエと県産品の融合でイメージアップ

創部以来、ジビエ部は約500人にアンケート調査を実施してきました。「ジビエに抵抗感がある」と回答した人はそのうちの4割に上りました。「どうすればジビエを抵抗感なく食べてもらえるか」を考え抜いた結果、土佐あかうし、四万十豚を鹿肉やイノシシ肉に混ぜた商品の開発に着手しました。そこで誕生した商品が「土佐オールスター☆バーガー」や高知県産ユズピールやアオサノリを使用した「土佐オールスター☆ソーセージ」など高知のスターが大集合した「土佐オールスター☆シリーズ」です。

今後は、県内での販売や外商を通じて販売促進活動を加速させ、野生鳥獣の食害を受けた森林保護活動への支援金を充実させていきます。